

あらあらのあらすじ

1. 今回の特別展のねらい（ご挨拶）

2. 透明標本の歴史と目的

3. 透明標本を使った研究例

その1. 環境教育への利活用

i. 海の中の「食う-食われる」を透明標本で感じる
マハゼとコノシロ

ii. 魚と私たちとの関係を透明標本で探る
ヒイラギ、ブルーギル、コノシロ

iii. 形態と生態との関係を透明標本で知る
アユ

その2. 機能形態学的研究

4. 透明標本を見てみよう

5. 透明標本の活用を考えよう

東京海洋大学マリンサイエンスミュージアム2017年度特別展 『透明標本を利用してサイエンスを楽しもう』

1. 特別展のねらい -ご挨拶- 透明標本の世界へようこそ！

最近、透明標本が話題を集めています。

透き通ったかわいい体の中に、神秘的な赤や青（洒落た言葉ではシアンやマゼンタともいいますが）に染まった骨格が、不思議な美しさを放つ透明標本は、自然の芸術品のようです。

書籍やインターネットでは（多分インスタグラムでも）、スーッとした美しさを私たちに伝えてくれます。

そうした美しさを保ちながらも、私たちは透明標本を使って研究しています。

この特別展では、その美しさだけではなく、科学への扉を開く科技（鍵、キー）として、透明標本を楽しんでもらおうと思います。

説明が面倒な場合は、透明標本の写真だけを眺めてもらっても結構です。

楽しんでみてください。